



# 学校だより

11月号

令和3年10月29日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



## 「緊張感と達成感」

学校長 後藤 直樹

深まる秋というよりは、Tシャツの季節から突然セーターの季節になったような気がします。寒暖の差や台風のスケールなど何でも極端なのがこの温暖化の特徴のようです。熱中症対策に気を付けながら約2週間の練習に取り組んできた運動会でしたが、初日は上着が欲しいほど肌寒い天候となりました。開会式では子どもたちに、学校でしか味わうことのできない「力を合わせて成し遂げることの楽しさ」を感じて欲しいという話をしました。

さて、コロナ禍での臨時休業や分散登校をきっかけに急速に導入が進んだIT機器の使用などにより、家庭での学習もクローズアップされてきました。個人で学習する手段が大幅に広がる中、学校での学習の在り方や意義が問い直されているのかもしれませんが、しかし、運動会の徒競走やリレーで必死に走る子どもたちの表情や、団体競技の勝敗に一喜一憂する姿を見ていると、集団の中で学んでほしいこと、経験を積み重ねて欲しいことがいかに多いかも改めて考えさせられました。緊張感の中、こわばった表情で整列して徒競走のスタートを待つ子どもたち。その緊張感を克服してもてる力を出し切るには、経験を重ねる以外に方法はありません。子どもたちは体験の中で緊張を抑えるマインドコントロールの方法を身につけたり、自然に体が動くようになるまで反復練習を重ねたりすることを学んでいきます。こうした力が活かされるのは、何も競技や運動だけの話ではありません。これから卒業の後、経験することになる試験やプレゼンテーションの場面など、極度の緊張を強いられる場面には幾度となく突き当たるに違いありません。学校行事などを通して味わった達成感は、それらを乗り越えていく原動力ともなるはずです。閉会式では、二人で原稿用紙3枚もの内容を全て覚え、全校児童の前で落ち着いて「終わりの言葉」を述べる子どもたちの姿がありました。

